

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 13 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20560603

研究課題名（和文） 御手伝普請を通じた建築情報の地方伝播に関する研究 ―徳川家霊廟の地方寺社への影響―

研究課題名（英文） Study on the building information transmitted to the region through the construction of the Tokugawa clan
- Impact by the Tokugawa - ke Reibyō mausoleum exerted to the local temples and shrines -

研究代表者

伊東 龍一 (ITO RYUICHI)

熊本大学・大学院自然科学研究科・教授

研究者番号：80193530

研究分野：日本建築史

科研費の分科・細目：建築学、建築史・意匠

キーワード：建築情報、霊廟、御手伝普請

1. 研究計画の概要

江戸時代を通じて幕末まで行われた日光東照宮をはじめとする徳川家霊廟の造営・修営は、幕府自らが実施したものもあるが、多くは大名からの労働力や資金の提供を受けて行われた御手伝普請であった。徳川家の霊廟建築は、今では失われてしまったものが多いが、筆者が明らかにしてきたように江戸時代における最高の技術をもって造営されたことに間違いはない。御手伝普請は、大名の国許と江戸の間での多くの人間の移動をもたらしたが、それとともに様々な建築技術・技法、意匠に関する建築情報の移動も伴ったであろうことは想像に難くない。徳川家霊廟の様式が地方に伝播する可能性は強く、ときには地方から中央に持ち込まれるといった逆の現象もまったくありえなかったとは言い切れないであろう。

本研究では、①徳川家霊廟（将軍霊廟だけではなく、夫人や将軍生母の霊廟までを含む）造営における御手伝普請の内容を御手伝に関わった大名家に残された古記録から検討するとともに、②造営への関与を通じて得て、国許に持ち込んだ建築に関わる情報を探り、かつ③徳川家霊廟と大名国許の寺社建築の技術・技法・装飾の形式との比較を通じて、造営がどのような影響を与えたのか、あるいは与えなかったのかを明らかにし、建築における中央・地方間での様式の伝播、様式の成立の可能性を検討している。

2. 研究の進捗状況

御手伝普請が幕府の建築をどのような形式

で地方に伝えたのかを、まず検討した。御手伝普請が、藩と幕府の工匠を結びつける契機となり、幕府の工匠が地方へ直接出向いて造営に関与する場合があった。津軽藩造営の岩木山神社本殿（青森県、元禄7年 1694）はその1例である。正面に龍の彫物をもつ装飾性の高い建物の造営には幕府の彫物棟梁・岸上太郎兵衛が関与した。岸上が津軽藩に招かれる契機は天和度日光東照宮修理における津軽藩の御手伝普請であった可能性が高い。また、御手伝普請は、図面や建築を描く絵画、造営関係文書を地方にもたらした。延享度日光東照宮修理では、福井藩に東照宮本殿内外部を描く絵画を伝えた。安永度の日光東照宮修理では、広島藩に諸建物の建地割を伝えている。図や絵の建築的精度は低いが、「目を奪う」ような装飾性は伝えている。これが藩の寺社建築に影響した可能性が高い。

また、御手伝普請で伝えられた情報により、どのような建築が生まれうるかを正確に検討するため、藩主が幕府に願い出て江戸初期造営の将軍霊廟を中心に検討した。玉井宮東照宮本殿（岡山県、正保2年 1645）は幕府の御大工・木原義久が「差図」作成に関わったものの、基本的には藩の大工が担当したと思われる。幕府の影響は平面や規模に限定されたとみられる。掛川藩造営の龍華院大猷院霊屋（静岡県、文政5年 1822 再建）は3間四方、宝形造、一間向拝付で、明暦2年（1656）に建立された建物を継承した可能性の強く、津山藩が造営した本山寺御霊屋（承応元年 1652）は、宝形造の本殿に、相の間と一間唐破風向拝付の拝殿とを接続する形式で、い

れも紅葉山の徳川家霊廟を簡略化した形式である。この後に藩が造営する寺社建築は、江戸初期に自藩が建てた徳川家霊廟を越える壮麗さをもつことができなかつたであろう。御手伝普請を通じての影響は、装飾の華やかさとして表れている可能性が強い。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

当初から、所在が明らかであった御手伝普請関係史料調査を後回しにし、新たな史料調査や建物調査を優先して実施してきたが、その部分が大きな成果に結びついていないものの、当初の予定の範囲の調査を実施すれば目的はほぼ達成できる位置にあると考えているからである。

4. 今後の研究の推進方策

当初の予定であった御手伝普請に当たった福井藩や岡山藩等の建物調査や史料調査を実施する。一方、これらの資料だけでは、一般寺社への影響を明確にすることは不十分と考えるので、一般寺社の造営関係史料の調査も行い、幕府や藩との関係をうかがえる史料を見出し、分析することによって、史料と建物遺構の関係づける作業を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

該当なし